

はがきと學年通信でNIE

～京都探究で残そう、はがき文化～



公認キャラクター まくら君



兵庫県立伊川谷高等学校 主幹教諭 (NIEアドバイザー) 福田 浩三

1. 実践の背景・目的

教育現場で増え続ける〇〇教育に対応するため、本校48回生では週刊『學年通信』に連載コラムや特集記事を掲載することで生徒の学びに繋げている。

SNSの発展など、はがき文化の衰退が危惧される中「はがきを書いて投函する」経験は重要であると報告者は考えた。そこで今回、京都遠足を題材に、事前学習と事後の振り返りに『はがき新聞』を活用し、前述の『學年通信』にて特集記事を組むことで、生徒の研修先である京都への興味・関心・探究心を高めると共に自己表現力を高める試みを行った。

3. 実践② (學年通信の活用)

京都遠足前に學年通信にて遠足下見報告やコラム記事を掲載することで生徒の機運を高めた。遠足実施の様子は2号に渡り特集を組んだ。



(a)



(b)

図4 事前コラム

図5 京都遠足特集号

2. 実践① (事前学習)

3月上旬に学年集会にて遠足の行き先(京都)を発表。はがき新聞による調べ学習課題を提示。

はがきは日本郵便「手紙の書き方体験授業」にて教材提供されたものを使用した。

観光 建物 食べ物
歴史 いろいろの
五種類に分け揭示

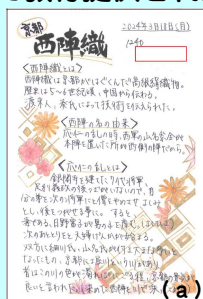


図1 生徒の京都調べはがき

図2 はがきを見る生徒

4. 実践③ (感想はがき新聞)

京都遠足の感想はがき新聞を作成した。その際、生徒はレイアウト、見出し、記事数等を考慮した。

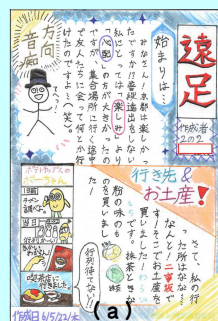


図5 感想はがき新聞



(b)

感想の共有と
はがき新聞による
表現力の共有



図6 廊下への掲示

5. 結果・考察

はがき新聞の作成により生徒が遠足当日だけでなく、その前後においても京都について多面的に考える事ができた。継続したはがき新聞の作成により、その作品から生徒の『書くことによる表現』

力の向上』が示された。調べ学習における引用出典の明示についての指導の重要性を感じた。はがきの投函など、以前は生活の中で得られた知識についても学習の機会を持つ必要があると考える。